

KEIZAIREN 情報11

● 2020.11 ● NO.1274

安全・安心・新鮮でおいしい静岡県産の農畜産物をお届けします。

直接販売で生産者所得の 向上につなげる営業部特販課



Main topics

直接販売で生産者所得の
向上につなげる営業部特販課 01

topics&news

コロナ禍の新しい商談会
タイとのリモート商談会を開催 03
「チャレンジ」を提供
静岡ジェイエイフーズ株が「市街地グランプリGOTSU2020」に協賛 03
新型コロナへの対応を県議会へ報告
新型コロナウイルス感染症対策特別委員会 04
山梨県で静岡県産品を販売
「バイ・ふじのくに」販売会を開催 04

いちじくの品質向上を
第44回静岡県いちじく果実品評会 05
リモートで実施
IPM技術指導者養成研修 05
2020JA-SS笑顔満タン!
ありがとうキャンペーン抽選会 05

営農支援だより

果樹のスマート農業 06

最新研究紹介 農林技術研究所だより

水田畦畔における
難防除雑草ネズミムギの防除技術 07

お知らせ

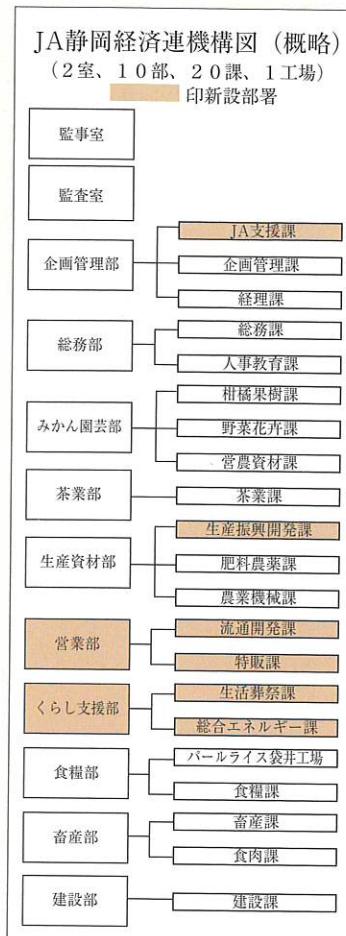
建設部からのINFORMATION 09
あぐりんく静岡からのお知らせ 09
カタログギフトのご紹介 10
テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介 10

Main topics

直接販売で 生産者所得の向上に つなげる営業部特販課

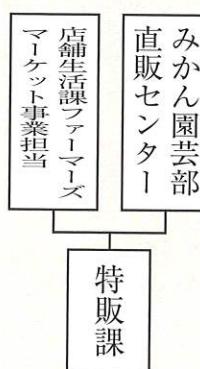
I はじめに

本会は、令和2年度をスタートするにあたり、「新時代への挑戦、農業の飛躍・経営の革新」を目指して「JA静岡3か年計画」を策定しました。同時に、この計画を円滑に進めるため、機構改編を実施し、新設の部が2部、新設の課が6課誕生しました。その中から、今回は新しく生まれた「営業部特販課」をご紹介いたします。



本年度4月、本会は表1のとおり、みかん園芸部直販センターと店舗生活課ファーマーズマーケット業務を併せ、新たに営業部特販課を設置し

表1 2つのセクション統合による特販課の設置



本会事業の取り組みの中で、消費や流通の多様化に対応する事業として、本会がJA・生産法人等から農産物を買取り、流通業者、量販店等に直接販売を行い、生産者の所得向

II 特販課の設置

ました。職員は課長以下5人のメンバーで主に直販事業とファーマーズマーケット事業を担います。

III 特販課が取り組む事業

1 直販事業



表2 直販センターの実績(百万円)

品目	令和元年度	平成30年度	平成29年度
イチゴ	174	174	115
レタス類	154	162	114
玉葱	135	151	144
キャベツ	53	48	49
青葱	35	31	29
トマト類	32	23	17
山葵	30	28	26
きのこ類	27	23	21
姫ネギ	20	24	19
花き	13	8	4
その他	236	252	271
小計	909	924	809
ミカン類	18	31	25
果樹類	9	12	0
小計	27	43	25
合計	936	967	834

IV これまで3年間の 多様な取組み

- (1) 洋菓子店にイチゴ・ブルーベリーを、蕎麦屋に自然薯を、回転するチエーン店に芽ネギ・姫みつばと、本県で生産される多様な特産物を、

- (2) 企画スポットの商品提案
- (3) 季節商品、売れ筋商品の選定と供給
- (4) 地場産品の端境期における供給支援
- (5) 健康志向を背景に、ジュース用として、飲料メーカーにセルリー・パセリを、またデパートの飲料店にイチゴを販売しています。
- (6) イチゴ・イチジクなどの規格外品を、ジャム・ピューレ等の加工原料向けに供給を進めています。
- (7) 花きは、全国展開をしている花き販売店に、本県の特徴的な品種のバラやトルコギキョウの直接販売に取組んでいます。
- (8) JAと連携し、輪菊とガーベラを葬祭祭壇用に仕向け、JA葬祭事業の取り扱いを拡大しています。

上と、地域の振興につなげる業務を担当します。その主な業務は、次の3つです。

それぞれのニーズに合わせて直接販売しています。

(1) 量販店への取組み

(2) 業務加工向け事業の拡大

(3) 新規顧客の開拓

2 フアーマーズマーケット事業

県内の東部地区で「う宮うな

「いで湯っこ」中部地区では「じまん市」「まんさいかん」「ほうせん

かん」西部地区では「さすが市」に

対して、生鮮青果物の供給を支援す

る業務を担当します。その主な業務

は、次の3つです。

(1) 地場産品の端境期における供給支援

(2) 企画スポットの商品提案

(3) 季節商品、売れ筋商品の選定と供給

(4) 健康志向を背景に、ジュース用として、飲料メーカーにセルリー・パセリを、またデパートの飲料店にイチゴを販売しています。

(5) イチゴ・イチジクなどの規格外品を、ジャム・ピューレ等の加工原

料向けに供給を進めています。

(6) 花きは、全国展開をしている花き販売店に、本県の特徴的な品種のバラやトルコギキョウの直接販売に取組んでいます。

(7) JAと連携し、輪菊とガーベラを葬

祭祭壇用に仕向け、JA葬祭事業の取り扱いを拡大しています。

Main topics

表3 平成30年度主要取引品目
(新規取引先17件・新規取引品目46件)

品目	取引先	用途
いちご「紅ほっぺ」	製菓加工会社	ファマーズマーケット用ケーキ
リーフレタス	青果加工会社	ファマーズマーケット出荷
リーフレタス	青果会社	サラダ用
落花生	青果会社	生協向けパック出荷
菊・ガーベラ	葬祭会社	葬祭祭壇用花き
早生みかん	青果会社	生協向けパック出荷
いちご「紅ほっぺ」	製菓チェーン店	ケーキ用
セルリー	漬物店	漬物用

表4 令和元年度主要取引品目
(新規取引先12件・新規取引品目44件)

品目	取引先	用途
いちご	伊豆村の駅	ジャム用原料
リーフレタス	青果会社	北海道惣菜業者
赤柄里芋	量販店	中京地区量販出荷
三島馬鈴薯	青果会社	サラダ用
キャベツ	青果会社	業務加工用出荷
ミニトマト	量販店	関東地区量販店出荷



▲加工業者の野菜カット工場



▲加工キャベツ



• 加西文書上



▲商談会への出展

(1) この1年間で新規取引先17件、新規取引品目46件を数えました。その内容は表3のとおりです。

(2) 静岡県産山葵葉茎を用いたセブンイレブンでの「おにぎり」の販売に取組みました。

(3) 花きの葬祭祭壇向けの出荷や、落花生の生協向けパック提供は、初の取引として期待されました。

2 令和元年度

(1) この1年間で新規取引先12件、新規取引品目44件を数えました。その内容は表4のとおりです。

(2) 加工用キヤべツは、数社の加工業者から二ースがおり、安定した需要が大いに見込まれました。

この2年間の 主要取引品目と用途

これまでの
量販店への取組み VI

(1) 県内及び中京の大型量販店を主に
して、葉ネギ、チンゲンサイ、糸
みつば、しいたけ等、周年で出荷
を行う品目を中心に、数量と価格
の年間契約を行い、安定した所得
の確保を目指しました。

(2) 量販店舗向けにイチゴやミニトマ
ト等をバラで出荷し、小分けパッ
ク化したり、JAのパッケージセ
ンターで少量パック仕様にしたり
するなどの取り組みを行いました。

(3) JAファーマーズマーケットから
出荷される品目について、県内量
販店と連携して取り扱いました。

VII
今後の直販事業の方向

(1) 消費と流通の多様化

(2)異常気象の頻発とコロナ禍の対応
最近の異常気象の頻発で、不安定な作柄となることがあります。これに対しても、JAと連携をし、生産出荷の調整や貯蔵をするなど、安定的な流通となるよう措置を進めています。

また、コロナウイルスの影響で、外食用食材の需要が減少し、マイナス面が大きくなっています。これの対応には、量販店への販売強

VIII
おわりに

営業部特販課は、本年度新規開設の新しい課です。これまで直販センター等で実施してきた直販事業のさらなる拡大取組みとファーマーズマーケット事業の実効のある成果を得るよう奮闘してまいりますので、今後とも、皆様方のご指導とご支援をいただきたくお願い申し上げます。

令和元年度の下期では、農業生産法人が生産した業務用レタスやキャベツについて、新規業者向けに提供し、取扱先の拡大をすすめました。また、エリアの新規開拓として、「西友」関東地区集配センターへミニトマト、「イオン」中部地区センターへ馬鈴薯を直送しました。このように、新たな取り組みを開拓し、事業を強化していきます。

(2)量販店舗に向けて出荷するため、タマネギ・バレイショ・ヒナヒゲ化やネット販売等新たな方策を講じていきます。

(3) 新たな事業の推進強化

化やネット販売等新たな方策を講じ
ていきます。

「コロナ禍の新しい商談会 タイとのリモート商談会を開催

10月8日、本会（食糧課、食肉課、流通開発課）は、県農業会館で、WEB会議システム「ZOOM」を介したタイとのリモート商談会を開き、関係者らおよそ50人が参加しました。本商談会は本会関連会社の（株）静経ライスの協力のもと開かれました。タイと静岡のマッチングを図り、効率良い商談により貿易促進を図ることが目的。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、現地での商談を行うことができない中、初の試みとして今回リモートにて商談会を開きました。

商談会ではまず、加藤敦啓代表理事長が静岡県の特徴や主要な農畜産物について概要をタイの参加者へ説明しました。その後、食糧課より新ブランド「静岡そだち（静岡県産コシヒカリ）」、食肉課より「特選和牛 静岡そだち」を紹介しました。タイからはタイ政府関係者や生協、商社のバイヤーなど40人ほどが参加し、現地に送られたサンプルを試食しながら商談が行われました。商談会を主催した食糧課は「この商談会をきっかけに静岡県の農畜産物を知つてもらい、許認可などの課題をクリアしながらタイへの輸出が実現できるよう進めていきたい」と抱負を語りました。



「ちゃレンジ」を提供

GOTSU2020に協賛

9月20日、本会の子会社である静岡ジエイフーズ（株）は、島根県江津市で開催された日本初の公道レース「A1市街地グラントプリ GOTSU2020」に協賛し、県産の一番茶と温州ミカンを使って製造した飲料「ちゃレンジ」をオフィシャルドリンクとして提供しました。「A1市街地グラントプリ」は、まち・ひと・技術・スポーツを融合した新しいコンセプトで、まちと市民の活性および技術の発展に寄与することを目的に開かれた公道レースです。

同社の高山英之代表取締役社長は、「コロナ禍の閉塞感のある世の中で、少しでもちゃレンジ心が起きる後押しになります。この『GOTSU2020』と『ちゃレンジ』が多く人の心に残ってほしい」と期待を寄せました。



新型コロナウイルス感染症対策特別委員会

新型コロナへの対応を県議会へ報告

10月15日、本会は、静岡県庁で開

かれた「新型ウイルス等感染症対策特別委員会（藪田宏行委員長）」に出席し、石川和弘常務理事が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で消費が低迷する農畜産物の状況や販売促進等の支援について報告しました。

新型コロナの影響で、飲食店やイベントでの消費が多い品目を中心には価格が低迷していることや、業務加工向け品目について取引数量が減少していること等を報告しました。また、本会の新型コロナ対策の取り組みとして、ドライブスルー販売や地域住民の方を対象とした地産地消の販売会の実施、インターネット販売（JAタウン）の活用とその成果について等を紹介しました。

委員へは、新型コロナによる影響が長期間に渡っていることから「バイ・サイズオカ」事業等について長期に渡る継続的な実施支援、コロナ禍での事業環境変化に対応する取り組み支援等を要望しました。



山梨県で静岡県産品を販売 「バイ・ふじのくに」販売会を開催

9月26日と27日、みかん園芸部と営

業部は、山梨県庁で開かれた「バイ・ふじのくに静岡物産展inやまなし」に

出展しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受ける生産物の販売を支援することが目的。静岡・山梨両

県で互いに農産物等を購入し合い生産者を支える「バイ・ふじのくに」の取

り組みの一環として開催されました。

この日は山梨県が主催となり、本会を含む9団体が出展し静岡県の農産物や水産物を販売しました。販売会は、来店客へ手指消毒を呼び掛け、検温や連絡先の把握をするなど新型コロナウイルス感染予防対策を十分に実施して行われました。

当日は、極早生みかんやいちじく、わさび、高糖度トマトなどの青果物のほか、静岡抹茶パンケーキミックスや機能性表示食品「静岡茶 揉一ひとえ粉末茶」等の加工品を山梨県の来庁者へ販売しました。また、10月24日と25日には静岡市葵区の青葉公園で山梨県の農産物等の販売会が開催され、静岡県の来店客で賑わいました。



いちじくの品質向上を 第44回静岡県いちじく果実品評会



9月17日、静岡県落葉果樹振興協会（事務局・柑橘果樹課）は、県農業会館で「第44回静岡県いちじく果実品評会」を開きました。県産イチジクの品質改善と生産者の技術向上を図り、産地を維持することが目的。審査対象の品種は「柳井ドーフィン」で、JJAから44点の出品となりました。静岡県農林技術研究所果樹研究センターの瀧義明センター長が審査長を務め、静岡県や農林事務所等の職員ら審査員8人が、外観や糖度、充実度、食味などを規定に基づいて審査しました。出品物の平均糖度は13.9度、最高は17.4度でした。出品物は、9月18日に静岡市清水



金賞	後藤一三雄（ハイナン）
銀賞1	池端晃（遠州中央）
銀賞2	深田勝弘（掛川市）
銀賞3	飯島正道（富士市）
銀賞4	杉山浩一（掛川市）
銅賞	矢部光良（掛川市）
	杉山貴志（掛川市）
	山下文雄（遠州夢咲）
	太田競（遠州夢咲）
	鈴木文子（遠州夢咲）
	萩原二重子（遠州夢咲）
	大石栄次（遠州中央）

区のイオン清水店で販売しました。上位入賞者は次のとおり（敬称略、カッコはJJA名）。



リモートで実施
IPM技術指導者養成研修
9月16日、静岡県産地技術課題解決研究会（事務局生産振興開発課）は静岡市清水区の静岡県農林技術研究所果樹研究センターで、令和2年度IPM（総合的病害虫管理）技術指導者養成研修会を開き、県やJJAの担当者らおよそ40人が参加しました。例年、実地研修として開催されている本研修会を、今年度は新型コロナウイルス感染拡大対策として、集合研修を行わず、WEB会議システムを活用したリモートでの実施となりました。

研修は、同センター果樹環境適応技術科の増井伸一科長らが柑橘の主要病害虫のIPMについて講義を行いました。参加者からは、柑橘に発生する害虫の生態や管理方法など、具体的な質問が寄せられました。

リモートで実施

IPM技術指導者養成研修

2020 JA-SS 笑顔満タン！



9月24日、総合エネルギー課は県農業会館で、鎌野厚常務理事をはじめ関係者の出席のもと、「2020 JA-SS 笑顔満タン！ありがとうキャンペーン」の当選者計240人を抽選しました。このキャンペーンは、8月1日～8月31日の1か月間、県内のJA-SSで行われ、10,494通の応募がありました。



柑農支援だより

作物・産地・営農・技術・
資材などの情報を届けします。

果樹のスマート農業

本会が発行する「柑橘」のように、農業以外の業界でも専門技術の雑誌が発行されています。そのようなコンピュータ技術情報雑誌（パソコンの使い方ではなく、コンピュータ機器の試作やソフトウェア開発専門誌）の特集に「農業」の文字が入る時代となりました。これまでも連載はあったものの、特集が組まれるとは、しばらく前には想像もできなかったことです。

農業とIT技術

施設栽培を中心に、農業でもIT技術の利用は研究されてきました。これまで、IT業界との接点はどううかと言つと農業の研究者からのアプローチでしたが、農業者自身が開発に参加したり、IT業界からのアプローチも増えてきました。農業の効率化や省力化などの技術実証を行つ国のスマート農業の事業が始まっています。ITを活用した農業技術の開発はさらに進むと考えられます。

スマート農業の技術開発

国のスマート農業事業における柑橘のモデル事例では、省力樹形やスマート農業技術（自走式の草刈り機やドローンによる農薬散布、AI選果機など）が例示されています。省力化により規模拡大を図る技術の実証を目標としています。各地で適応性が検証され、近い将来に省力化機械として市販されることが想定されています。

柑橘のスマート農業の展開

スマート農業は単に機械開発だけに期待するのではなく、農業現場を機械の使いやすい環境にすることにより、迅速な普及を図ることを想定しています。柑橘では双幹形の省力樹形、落葉果樹ではジョイント栽培など、国や県などの研究機関の栽培技術の成果を活用することが可能となることも、遠い未来ではないかもしれません。（柑橘果樹課技術コンサルタント吉川公規）



作業者を追従したり、GPSで自動走行できる
運搬作業補助ロボット

県農林技術研究所では、JAみつかびと本事業で令和2年度から実証研究を開始しています。農業ロボット・経営戦略科と果樹研究センターが県内企業と共に開発してきた自走ロボットの実用化を目指し、研究が進められています。

ドローンもスマート農業で検討されており技術のひとつです。主に水稻用として農機展示会出展され、参加者の興味を引いていました。農薬散布においては、購入すれば利用できます。免許や登録などの法律や制度が整備途上の面はあります。水稻への農薬散布ではほぼ実用化された技術と言えます。ただ、柑橘では少量高濃度散布の登録のある農薬が限られています。登録の拡大や傾斜地での自動運転などの進展が期待されるところです。



ドローン(写真上)によるセンシング
で黄化した不良樹を確認(写真下)

ドローンの利用は農薬散布だけではありません。果樹研究センターでは、写真のように上空からセンシングすることで、生育状況や病害虫を把握する研究も進められています。樹ごとの病害虫発生を見極めて、防除を行うような精密農業が可能となることも、遠い未来ではないかもしれません。（柑橘果樹課技術コンサルタント吉川公規）

水田畦畔における難防除雑草ネズミムギの防除技術



静岡県農林技術研究所
水田農業生産技術科
上席研究員
外山祐介

一 はじめに

麦作における雑草防除では、一般的に除草剤が使用されており、適切な処理により、雑草の発生を抑えることが可能です。しかし近年になって、外来のイネ科雑草「ネズミムギ」（別名・イタリアンライグラス）が静岡県を中心に全国の麦畠で増加し、麦作に多大なる被害を及ぼしています。「ネズミムギ」は路傍や土手、果樹園等でもよく見られる雑草ですが、その利用しやすさから緑化資材として道路の法面に幅広く導入されています。これら法面に導入されたネズミムギが周辺の麦畠等農耕地に侵入・拡散したと考えられており、一度畠に侵入・蔓延してしまうと、小麦の収穫量が大幅に減少することに加え、収穫にかかる時間の拡大、異物混入による乾燥調整コストの上昇につながるなど、経営に大きな影響を及ぼすことがあります。

ネズミムギは周辺の水田畦畔から畠に侵入するため、水田畦畔での防

除が欠かせませんが、ラウンドアップマックスロードやバスター液剤といった非選択性除草剤が効かない個体が多発し、防除することが極めて難しくなっています。また、水稻の害虫であるカメムシなどの住処にもなる上に、水田景観の悪化にもつながることから早急な対策が望まれていました。そこで、当研究所では、侵入源にあたる水田畦畔に発生する個体を防除することにより、ネズミムギ被害の拡大を防止できると考え、試験を進めました（写真1）。

まず最初に、非選択性除草剤抵抗性ネズミムギに効果のある除草剤の探索を行いました。新規に開発された除草剤を含む複数の除草剤の効果を検証した結果、イネ科雑草対象茎葉処理剤であるワンサイドP乳剤やアフターエイドフロアブルに高い効果が確認されました。

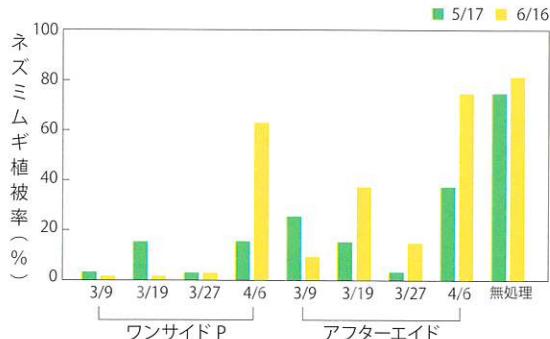
次に効果のあった除草剤の適切な散布時期の検討を行いました。12月中旬から3月中旬にかけて1ヶ月おきに除草剤を散布した結果、いずれの時期においても無処理区に比べてネズミムギの発生が抑えられ効果が高いことが確認されました。一方、雑草が特に生育しやすい3月～4月にかけて10日ごとに除草剤を散布した結果、ネズミムギの草丈が30cmを超えるような時に散布すると、どちらの除草剤も効果が劣ることが確認されました（グラフ1）。これらのデータから、ネズミムギの草丈が30cm未満の時期にイネ科雑草対象茎葉処理剤を散布する必要があることがわかりました。

二 非選択性除草剤抵抗性ネズミムギ対策

三 水田畦畔における総合的な管理

水田畦畔にはネズミムギのようないネ科雑草だけでなく、様々な広葉雑草も生えるため、それらを含めた総合的な管理を行う必要があります。ネズミムギに効果のあった除草剤はイネ科雑草対象茎葉処理剤であったことから、その他除草剤と組合わせた最適な体系処理方法を検討しまし

グラフ1 イネ科雑草対象茎葉処理剤の時期別の効果

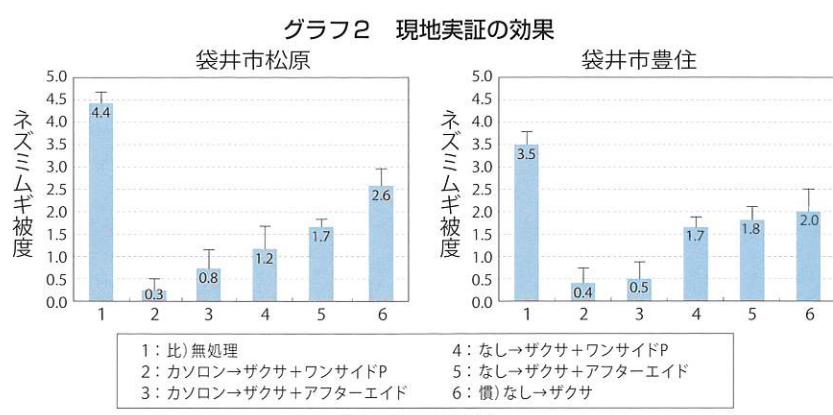


注：植被率は50×100cmの枠内の植被率を3ヶ所/区達観調査した値で、0(0%)～5(100%)の6段階で評価した。

た。まず始めに、土壤処理剤であるカソロン粒剤4・5との体系処理の効果を検証しました。その結果、秋におけるカソロン粒剤4・5散布と組合わせた体系処理が、イネ科雑草対象茎葉処理剤の単体処理に比べて効果が高いことが確認されました。次にイネ科雑草対象茎葉処理剤と非選択性茎葉処理剤であるラウンドアップ液剤やザクサ液剤と混ぜて散布すると、各剤の単体処理に比べてネズミムギ防除に効果が高いことが確認されました。一方、バスタ液剤と混ぜて散布すると他の組合せ処理に比べてやや効果が劣りました。

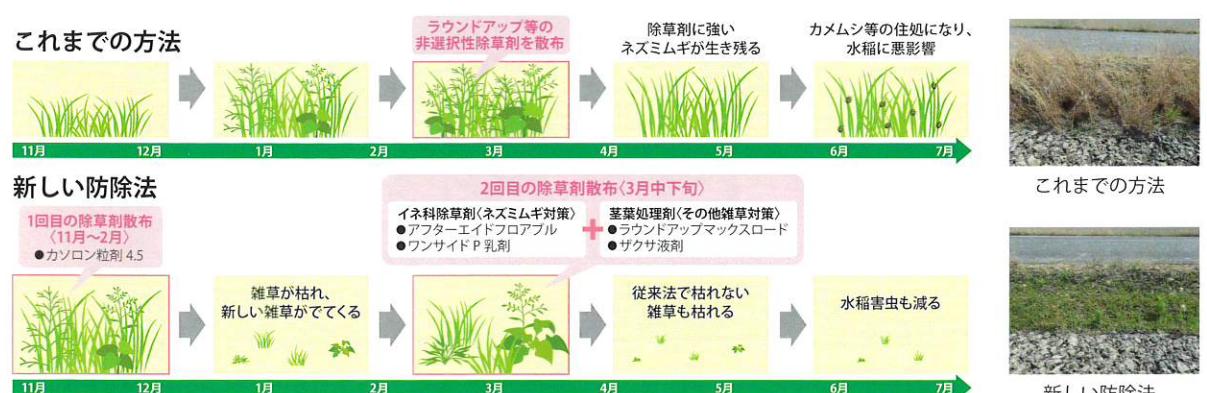
これらのデータに基づいて、「土壤処理剤との体系処理」と「非選択性除草剤と混ぜて散布」を組合わせた処理について、現地水田畦畔で現地実証を行いました。その結果、農閑期である晚秋から厳冬期の間にカソロン粒剤4・5を水田畦畔に散布し、その後早春の3月中下旬頃にイネ科雑草対象茎葉処理剤（ワニサイドアップまたはアフターイードフロップ乳剤またはアフターイードフロップ）と非選択性茎葉処理剤（ラウンドアップまたはザクサ液剤）を混ぜて散布する方法は、除草剤抵抗性ネズミムギを含む水田畦畔の管理

に効果が高いことが確認されました（グラフ2）。これにより、従来では防除が困難であったネズミムギを効率よく枯らすことができるようになります。ただでなく、異なる作用点を持つ複数の農薬を用いることにより、除草剤が効かないネズミムギの出現を抑制することにもつながります（写真2）。



注) 1) 被度は50×100または50×50cmの枠内の被度を3ヶ所/区違観調査した値で、0(0%)~5(100%)の6段階で評価した。
2) 垂線は標準誤差を示す。

写真2 水田畦畔における新しい防除技術



四 おわりに

静岡県と同じように全国各地で除草剤抵抗性のネズミムギが出現・増加しています。今回開発したネズミムギ防除技術は、県内はもとよりネズミムギで困っている全国からも注目されている技術で、今後大いに普及することが期待されています。また、新しい防除法では、水田畦畔の維持に必要な最低限の植生が残りますので、水稻栽培時においても、畦畔が崩れる心配はなく、広く使える技術であると考えています。本研究は、農林水産省委託プロジェクト研究「多収阻害要因の診断法および対策技術の開発」により開発した技術です。これらの結果は、「小麦難防除雑草「ネズミムギ」の侵入・拡散防止と新たな防除技術」として現在マニュアルの作成を進めています。現場で御活用いただき、本県における麦栽培が更に拡大することを期待します。

連絡先 磐田市富丘六七八一
静岡県農林技術研究所
水田農業生産技術科
agrisuiden@pref.shizuoka.lg.jp

建設部からのINFORMATION

担当 建設部 054-284-9523

J A しみず

遊休宅地活用の取り組み 障害者グループホーム新築工事

J A しみず組合員 橋本様は、所有する遊休宅地活用をJ A しみずと本会に相談し、障害者グループホーム建設による土地活用を決断されました。

活用検討にあたっては「地域の障害者福祉に貢献したい」という橋本様のご意向を満たすため、大型テナント誘致や高収益にこだわらず、長期



▲地鎮祭のようす

地鎮祭

的に安定運営していただける障害者福祉事業者の確保を最優先事項としました。

地鎮祭以後は本会建設課による現場管理で工事品質確保を行い、来年2月に予定している完成と来年度4月からの入居者募集開始に備えます。



▲完成イメージ

【 営農ナビ 】

イントラ版として情報発信していきます!

「あぐりんく静岡 からのお知らせ」 県内JA限定 生産・事業推進に役立つ情報が満載!!

農産物安全分析センター

分析メニュー、申込書、分析フロー(手順)を掲載しています。分析の際はコチラから!

経済連肥薬通信

更新

経済連肥薬通信11月号

経済連コンサルタントによる技術情報

気象情報

日本気象協会が発行している
1カ月予報、3カ月予報を掲載しています。

販売情報

市場概況

大田市場、名古屋市場、大阪市場の概況を
月曜日、木曜日に更新しています。

●イントラから利用できます。

～他にも、農畜産物別の情報や県内JAのニュースなども充実～

担当：生産資材部 生産振興開発課 (TEL 054-284-9729)

カタログギフトのご紹介

選べるギフト「食卓専科」

本会オリジナルカタログギフト「食卓専科」をご紹介します。

食卓専科はカタログを受け取ったお客様がセットされている商品カードからお好きな商品を一つお選びいただけるカタログギフトです。カタログの中からお好きな商品を選べるため、贈られた方から大変喜ばれる商品です。

カタログで取り扱う商品は、農畜産物をはじめ水産物や加工品など「静岡の美味しいもの」を取り揃えています。「静岡」にこだわったカタログギフトとして多くの皆様にご利用をいただいております。大量のご注文にも対応しておりますので、企業様のキャンペーン商品としてもご利用を頂いております。

各種「のし」対応もいたしますので、お世話になった方への御礼や結婚祝い、弔事のお返しにも大変おすすめです。また手軽に静岡ギフトをお渡しできるため、手土産やゴルフコンペの商品などにもご利用いただけております。

詳細については経済連 流通開発課までお気軽にお問い合わせください。

担当:営業部 流通開発課 (TEL:054-284-9728)



▲ギフトカタログ「食卓専科」

ギフト内容の一例…

静岡県産メロン、静岡県産野菜セット、静岡県産お茶、静岡県産のお米、静岡県産飲料、静岡県産豚ロース、静岡県産しらす干しセットetc

…静岡県産品を中心に常時15アイテム以上取り揃えております!!

上記以外にも、季節限定の取扱商品もございます。

(例、みかん(冬)、新じゃが(夏)など)

テレビ番組「しづおかごはんが食べたい!」のご紹介

食糧部は、協賛するテレビ番組「しづおかごはんが食べたい!」(全11回放送・テレビ静岡)で、県下各地のお米のPRを行っています。

10月17日に放送された第5回目の放送では、JAなんすんの「するがの極」をお笑い芸人フォーリンラブ・バービーさんが沼津市等から紹介しました。また、11月7日に放送された第6回目の放送では、「静岡県産こしひかり」をお笑い芸人オードリー・春日さんが紹介し、静岡県産米の美味しさをPRしました。

次回放送は「静岡県産きぬむすめ」を富士市・富士宮市からバービーさんが紹介予定です。11月21日(土)夕方5時より放送! ぜひご覧ください!



静岡県産米の美味しさをPRするフォーリンラブ・バービーさんとオードリー・春日さん



▲第5回目の放送ではJAなんすん「するがの極」を紹介



担当:食糧部 食糧課 (TEL:054-284-9737)

お年賀茶

新しい年を慶びのお茶で迎える
新年のご挨拶に毎年ご好評をいただいている
お年賀茶のご案内です。





17100654

**金粉入りお年賀茶
(カートン入り)**
30g×10個
**5,900円(1個あたり)
(常温365日間)**
※10個入での販売となります。



17100655

**御年賀茶
(たとう紙入り)**
40g×10個
**5,900円(1個あたり)
(常温365日間)**
※10個入での販売となります。



17100656

**御年賀茶
(たとう紙入り)**
80g×5個
**4,850円(1個あたり)
(常温365日間)**
※5個入での販売となります。



17100757

**御年賀
(クラフト平袋)**
30g×10個
**3,500円(1個あたり)
(常温365日間)**
※10個入での販売となります。

輝かしい新年のご挨拶にふさわしい、お年賀茶の大定番! 金粉入りで鮮やかに! 縁起良く!

商品の価格はすべて消費税込みのお届け価格になっています。 このマークの商品には短冊のしが付けられます。ご注文書にご指定ください。(外のしになります)

年内配送のご注文の締切 令和2年12月11日(金)

*年内配送は12月22日(火)頃までのお届けとなります。

*商品の価格はすべて消費税込のお届け価格になっています。

【お問合せ先】静岡ローディング株式会社 農協直販事業部

〒422-8006 静岡市駿河区曲金3-8-1

TEL 054(288)6688 FAX 054(288)4444

お電話 (通話料無料) 0120-014859

FAX (送信料無料) 0120-418465

